

島大が「拠点大」に

国 普及事業の 官民で研究会設立

島根大学（松江市西川津町）がこのほど、地域の特色を生かしたエネルギー教育の研究実践を国

が支援する「エネルギー教育調査普及事業」の地域拠点大学に選ばれた。研究は山陰両県の学校や企業、NPOなどで研究会を設立し、官民協働で地域の暮らしとエネルギー環境を学ぶ教育プログラム開発に取り組む内容

で、支援を受けられる二〇〇七年度までに具体化を目指す。

拠点大は、国の委託を受けたエネルギー環境教育情報センターが、優れた研究実践を評価し、選定する。本年度は、応募した全国十四大学から五大学が選ばれ、島根大は三年間で千二百六十万円の助成を受ける。選定された同大の研究

は「山陰の地域に根差したエネルギー環境教育に関する実践的研究」。

大学を中心に、山陰両県の学校、行政、企業、NPOなどでつくる「山陰エネルギー環境教育研究会」を組織。原子力発電所が立地する全国唯一の県都・松江市をはじめ、たたら製鉄、石見銀山遺跡など地域資源を生かした、幼児から高校生まで

の教材の開発や教育プログラムを作ることを目指す。

研究会にはすでに和鋼博物館（安来市）、出雲科学館（出雲市）、中国電力などの参加が決まっており、同大でさらに参加者・団体を募っている。問い合わせは同大教育学部の重松宏武助教（電話0854・2・327・6304）。